

整理番号 S-160

出展 (走査電子顕微鏡による)織物欠点解析事例集

欠点名 光沢斑(当たり)

品名 レーヨン/アセテート交織織物

試料形態 織物

組織 変わり織

糸使い

たて糸:レーヨン 100d/40f (S)1,800T/m

アセテート 100d/27f (S)1,800T/m

よこ糸:レーヨン 100d/40f (S)1,800T/m

アセテート 100d/27f (S)1,800T/m

欠点発生状況

加工後、織物の中央部に斑点状に光沢斑が発生した(織物を斜め方向から見るとよく分かる)。生機の段階で汚れを落とした時の痕跡ではないかとクレームがついたものである。

試料写真

なし

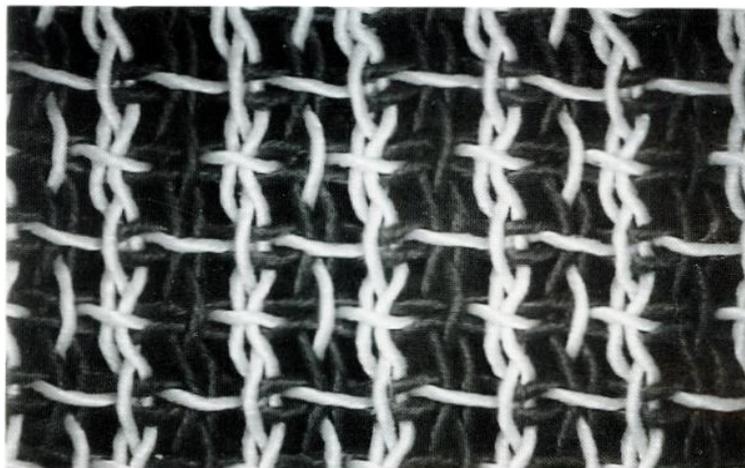
試験結果

(1) マイクロスコープ観察

・ 織物の表面

マイクロスコープ
での表面観察

正常部分



異常部分

たて糸の湾曲に
差が見られる



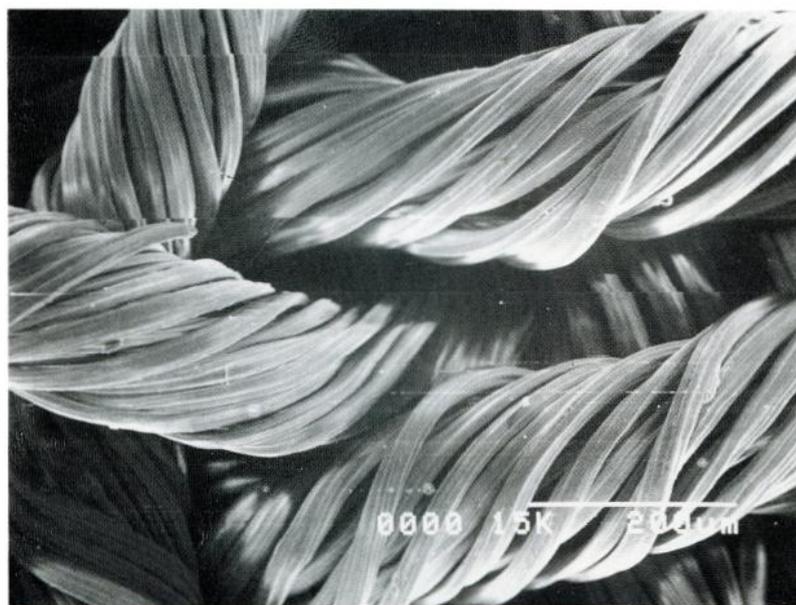
(2)電子顕微鏡観察

解 析

正常部分
150倍



異常部分
150倍



所 見

マイクロスコープで織物の表面を全体的に観察すると、たて糸(白い方)の並びに変化が見られる。正常部分のたて糸は同一方向に湾曲しているのに対して、異常部分は左右反対方向になっているのが分かる。他に発生している箇所も同様な現象を呈している。さらに、電子顕微鏡で観察すると、この部分の糸に凹んだところが多く見られる。これは、加工中に織物の表面が押さえられて、目寄せ現象を起こして光沢むらが発生したものと推察された。